

市民目線で行動できる 職場を目指して

最前線紹介

三重県桑名市市民環境部環境対策課

桑名市は、三重県の北部、揖斐川・長良川・木曾川^{きそがわ}の木曾三川河口部に位置し、北西部には養老山地、南東部には伊勢湾が広がる、水と緑豊かな自然環境に囲まれた人口約 14 万人の都市です。



空から見た桑名市

古くから水上交通、陸上交通の要衝として栄え、江戸時代には伊勢国の東の玄関口として東海道を行き来する人やお伊勢さん（伊勢神宮）への参宮客を迎えるなど、東海道五十三次の 42 番目の宿場町（桑名宿）として大いに賑わいました。市内には現在も貴重な史跡や文化財が数多く残っており、江戸時代初期に始まったとされる「石取祭」^{いしどりまつり}は、40 台程の山車が一斉に鉦^{かね}や太鼓を打ち鳴らすことから「日本一やかましい祭り」とも言われ、平成 19（2007）年に国指定重要無形民俗文化財に、平成 28（2016）年にはユネスコ無形文化遺産に登録され、市内外から多くの見物客が訪れます。その他、日本有数のテーマパークを抱えるなど、当市は歴史と文

化を育むまちである一方、県内屈指の観光都市でもあります。

ところで、皆さんは絶滅危惧種に指定されている「イヌナシ」をご存じでしょうか。イヌナシはマメナシとも呼ばれ、日本では三重県、愛知県、岐阜県の 3 県にしか生息しない大変珍しいバラ科の落葉樹です。当市には自生地としては日本最大級の「多度のイヌナシ自生地」があり、平成 22（2010）年に国の天然記念物に指定されました。学術的に高い評価を得ており、現在も地域住民や行政、NPO などが協働で保全活動を行っています。

また、昨年 3 月には、2050 年二酸化炭素排出実質ゼロを目指し、「桑名市ゼロカーボンシティ宣言」を表明しました。現在は、まずはできることから少しずつ取組を始めていますが、今後も、市民、事業者、行政等が一体となって、様々な取組を積極的に推進し、ゼロカーボンシティの実現を目指してまいります。



ユネスコ無形文化遺産登録 桑名の石取祭

さて、当市の公害苦情の総合窓口は環境対策課が所管しています。当課は、1課1係で構成されており、課長を含めた職員は8名です。担当業務は、公害、環境保全、環境学習、環境衛生、環境美化、墓地、火葬場、動物愛護、犬の登録、エネルギーなど多岐にわたります。

苦情や相談は毎日のように寄せられますが、近年は、公害苦情というより生活環境における近隣住民同士のトラブルが多くなっています。

当市は、中部経済圏の中心都市である名古屋市に近く、丘陵地が団地へ、田畑が住宅へと急速な宅地開発が進んでおり、以前から住んでいる住民と引っ越してきた住民との間でトラブルになるケースが年々増加しています。野焼きはその典型的な例で、農業従事者が古くから行ってきた必要最小限の稲わら等の焼却についても、引っ越してこられた住民からは中々理解が得られないようです。

また、市内には空き家や高齢者のみの世帯が増加しており、庭木や雑草の越境など土地の適正管理に関する苦情も多くいただいています。

その他、ペットの鳴き声など生活騒音に関する苦情も多く寄せられています。

これらの苦情やトラブルは、生まれ育った環境や考え方の違い、地域コミュニティの希薄化、更には今日の少子高齢化、核家族化の進展などが要因と考えられますが、基本的には当事者間、あるいは地域で解決すべき案件であり、行政の対応には限界があるため、その対応にいつも苦慮しています。

公害苦情としては、宅地開発に伴う造成工事や事業所からの騒音・振動に関する苦情が最も多くなっています。

また、市内には国道等の主要幹線道路が集中しているため、昼夜を問わず自動車（特に大型貨物自動車）の交通量が多く、沿線住民から自動車騒音や道路交通振動に関する苦情をいただ

くこともあります。このような申立てがあったときは、速やかに現場に出向き、申立人立合いのもと、必要に応じて騒音・振動測定を実施するようにしています。

その他、交通事故等に伴う河川への油流出事故も度々発生しており、随時、その対応に当たっています。

このように、限られた職員の中、公害苦情等の対応に追われていますが、苦情対応に当たっては、まずは市民の話にしっかりと耳を傾け、その上で行政として何をすべきか、何ができるのかを適切に判断するよう心掛けています。中にはいつまでも怒りが収まらない方もおられ、苦情対応の難しさや大変さを痛感することもあります。少しでも納得していただけるよう、冷静かつ丁寧な対応に努めています。

最後になりますが、今後も市民の気持ちに寄り添い、市民目線で行動できる職場を目指して、職員一同更にスキルを高めていきたいと考えています。



桑名の焼きハマグリ